

【事業所名】 足立区地域包括支援センターさの

I 事業の年間報告

事業の概要	自己評価	年間の取組と評価	取り組むべき課題
1 利用者への取組			
(1) 人権尊重の徹底	B	① 虐待の芽チェックリストを実施し、現状確認し、各職員へ改善を促した。	① 虐待の芽チェックリストを年 2 回実施し、分析や運営改善に取り組む。
(2) 苦情解決・相談体制の整備	A	① 足立区の苦情・事故対応ルール(30分ルール)を基に対応。小さな苦情レベルからセンター長へ報告し速やかに所管課に連絡、対応している。	① 新任職員の採用があるため、苦情・事故対応ルールの説明と徹底。
(3) 事故防止対策	C	① FAX の誤送信・ヘルメットの盗難などの事故を所管課へ報告。 苦情・事故対応ルールの研修開催と周知徹底し、管理者が監督できるように体制を変更した。	① 監督職も対応できる体制作り
(4) サービスの質の確保	A	① 委託を受けている事業は、全体で進捗状況を確認しながら、滞りなく達成することができた。 また、生活支援体制整備事業などは履行評価以上の回数を実施した。 ② 所管課による評価結果は、区内全体の包括支援センター(25 か所)のうち第 2 位であった。	① ベテラン職員に業務分担が偏っているため、業務分担の見直し、平準化への体制作り。
2 職員への取組			
(1) 人材の確保・育成・定着	A	① 困難ケースの対応についてはベテラン職員からの OJT、それ以外の業務は所内全体で OJT をシェアする体制で継続。業務担当を変更した職員と新任職員に対しては、センター長が3カ月1回の面談を実施し、個別の質問や相談を受けるようにした。 人材育成のシステムづくりとして職員毎に必要なマニュアル一覧を作成し、マニュアルの伝達研修やOJTが完了したかは一覧をチェックすることで確認できるようにした。	① 新任職員の育成・定着 中堅職員のスキルアップの体系づくりを行っていく。 ② 数年後の足立区の圏域変更を視野に入れた人員配置の検討
(2) 職場環境づくり	A	① 三職種の専門性を活用しながら相互に情報共有、連携、協働する「チームアプローチ」を実践し、多面的な視点で相談支援や地域課題に対応する事が出来た。	① 職員一人一人の経験に沿った業務担当の振り分け。 ② 新人職員の育成計画を実施。
3 地域社会への取組			
(1) 地域貢献	A	① 担当圏域の特養で実施しているフードパントリーに参加し、他機関と連携しながら「高齢者部門」としての地域貢献を継続した。 ② 自主グループ(家族介護者の会)の運営については、職員が講師を紹介したり、運営の助言を行うことで1年間継続が出来た。	① 物価高騰でフードパントリーの物品提供も品薄になっている課題がある。「社会福祉法人の地域における公益的な取り組み」も含めた活動として、フードドライブに関して地域貢献できる可能性について検討。
(2) 災害対応	A	① 足立区との特養さのにおける二次避難所設置訓練に参加。	① 有事の際を想定した職員の動きや連絡網の見直しを行う。
4 経営基盤強化への取組			
(1) 収入増への取組	B	① 複数配置加算を目指した採用活動と人事異動を検討した。	① 常勤職員の複数配置
(2) 災害・感染症対応	A	① 足立区介護保険課主催 災害時ケアマネジメント研修受講 ② 居宅介護支援部会 「介護事業所における機能するBCP とは」受講	
(8) 情報セキュリティの強化	A	① 9月「個人情報保護法とその他関連法規」「プライバシー保護への取組」所内研修 ② 令和6年度より情報セキュリティ対策について3か月ごと取り組みについての報告を所管課へ提出。	① 予防プラン委託先の居宅介護支援事業所における情報セキュリティ対策の実施状況をどの様に把握していくか。